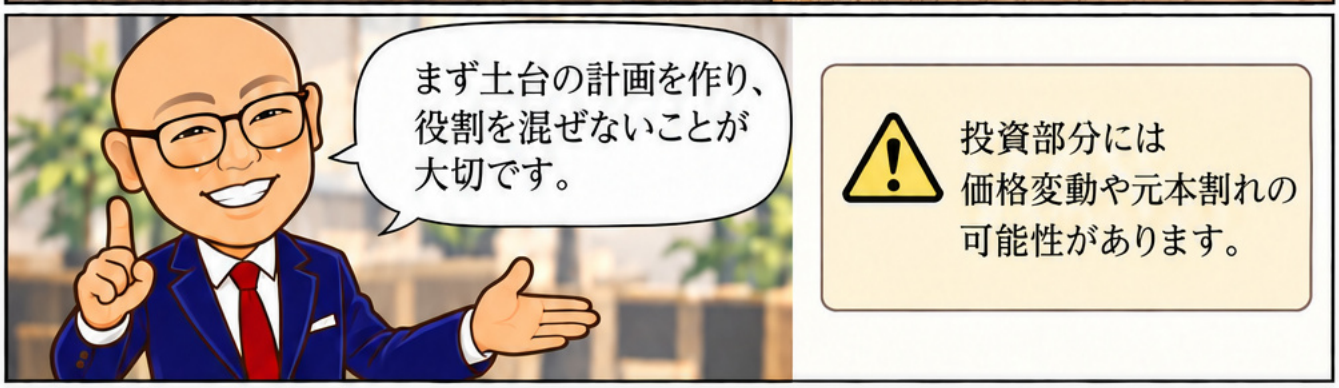
まず、投資の「役割」を分ける







割合は、条件に合わせて考える

1 配分の一例：コア80%／サテライト20%



図は模式図です。



2 配分を考える範囲の例

コア

70~90%

資産全体の中心となる
土台の部分です。



サテライト

10~30%

成長の可能性を取りにいく
挑戦の部分です。



3 配分は、次のような条件をふまえて考えます

年齢



年齢によって、
取れるリスクの大きさ
が変わります。

収入



収入の安定性や
今後の見通しを
考えます。

資産



現在の資産の状況
(貯蓄や資産全体)
を確認します。

生活と目的



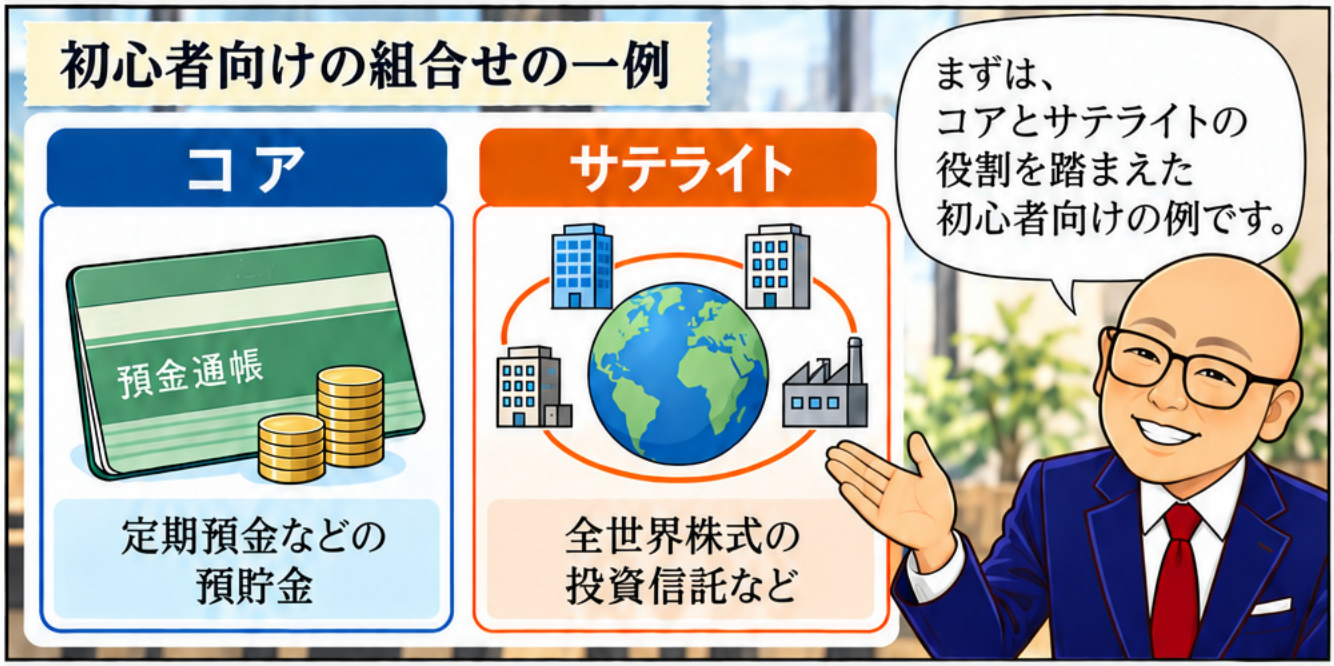
生活スタイルや、
お金を使う目的・時期
を整理します。

この数字は、一律の推奨割合ではありません。
土台と挑戦枠の役割を分けます。



初心者の例：土台を確かめる

初心者向けの組合せの一例



コア

定期預金などの
預貯金

サテライト

全世界株式の
投資信託など

生活費と投資用資金を分けて考える



生活資金

日々の生活に
必要なお金



投資用資金

余裕資金で
投資に使うお金



投資を続けていく上で大切な考え方

長期



時間をかけて
じっくり取り組む
考え方です。

積立



定期的に
一定の金額で
続ける考え方です。

分散



投資先を分けて
リスクを抑える
考え方です。

**長期・積立・分散でも、
元本割れの
おそれはあります。**

投資には価格の変動があるため、購入した金額を下回る可能性があります。

経験に合わせて、組合せを学ぶ

初級の説明例

まずは基本を中心に、わかりやすい組合せから始める考え方です。

コア

全世界株式の投信



世界のさまざまな国や地域の企業に、幅広く投資する投資信託です。

サテライト

スポット投資や、テーマ型投信など



特定の分野やテーマに投資する商品や、タイミングを見て行う投資など、さまざまな方法があります。



中級の説明例

基本を土台にしながら、投資対象のバリエーションを広げる組合せの考え方です。

コア

投資信託



幅広い資産に分散して投資できる投資信託を、土台として活用します。

サテライト

ETF・大型株など



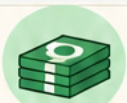
ETFや、規模の大きい企業の株式なども組み合わせて、投資の幅を広げる方法です。



組合せの一例です。
経験だけでなく、収入・資産・目的も確認します。



経験
投資の知識や経験のレベル



収入・資産
家計の状況や資産のバランス



目的
いつ・何のためにお金を使うのか

同じ商品でも、役割は変わる

経験を積んだ人の組合せ例



コア

投信・ETF・大型株



資産形成の中心として長期的に持つ部分。投資信託・ETF・大型株などが使われます。

サテライト

成長株の調査・売買手法など



より高いリターンを目指して、成長株の調査や売買手法などいろいろな方法に挑戦する部分です。

同じ商品でも、役割は、経験や方針によって変わる

初心者の例



まずは必要なお金を確保し、投資を学ぶ例です。

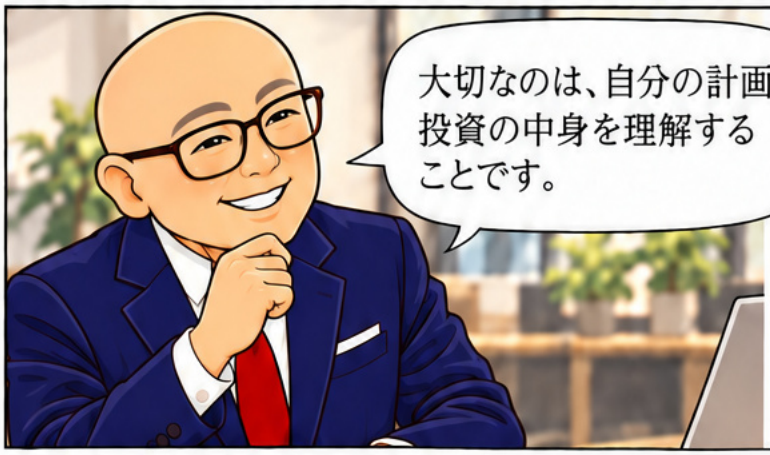
長期・積立・分散で、投資の動きを学ぶ例です。

別の経験段階の例



経験や方針に応じ、投信を土台に置く例です。

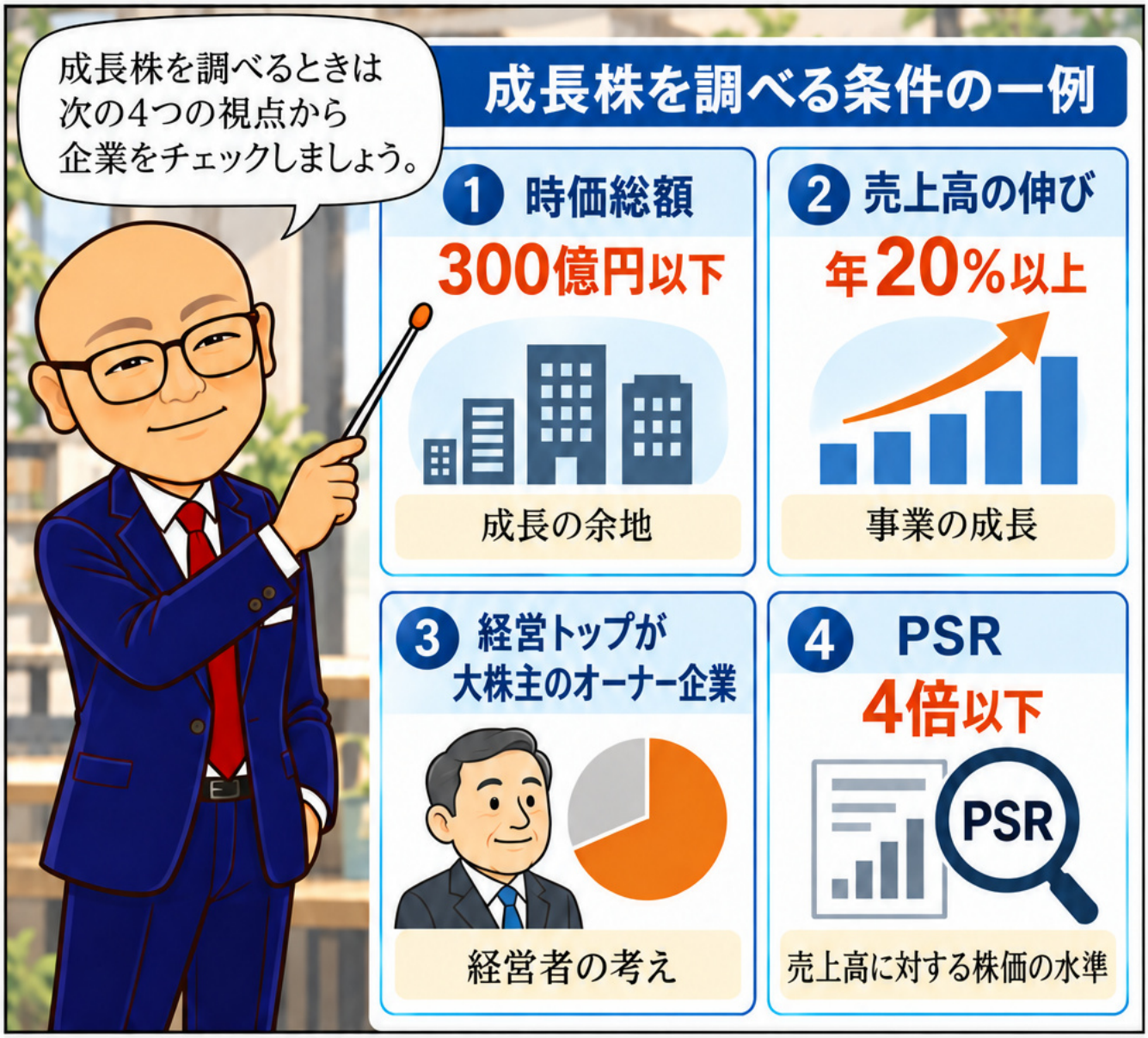
事業を調べ、成長の可能性を検討する例です。



⚠ 株式や投信をコアに置く場合も、価格は上下します。

コア・サテライトは、商品の名前で役割を分ける考え方です。
どの部分にどのような商品を置くかは、自分の計画や考え方に合わせて決めましょう。

成長株を調べる、4つの視点





企業を調べ、数字を読み解く



1 上場2〜3年の企業を整理



- ☐ 上場時期
- ☐ 業種
- ☐ 市場区分
- ☐ 時価総額の規模
- ☐ 事業の特徴

2 事業・経営者の発信を確認



- ☐ 事業内容
- ☐ 成長戦略
- ☐ 経営者の考え方
- ☐ 説明会資料
- ☐ ニュース・記事

3 決算と発言を照らし合わせる



- ☐ 売上・利益の動き
- ☐ 計画との整合性
- ☐ 経営者の発言内容
- ☐ 実際の進捗
- ☐ リスク要因

高い仮目標を、2年間で考える



1 まず、元本に対して**年50%分**を上乗せする高い目標を、仮に置きます。

2 1年で1.5倍と考えるより、1年で結果を急がず、2年間で計画を考えてみましょう。

3 そこで、**2年で元本を2倍にする**仮目標を設定します。

元本を100とした仮の計算例



目標の計算はシンプルに



元本を基準にした、仮の目標の計算

2年間で100%増 ➡ 100%÷2年 ➡ **1年あたり元本の50%分**

注意

- この教材で置く高い仮目標で、**一般的な期待利回りや達成見込みを示すものではありません。**
- 目標は利益を保証しません。期間を延ばしても、**元本割れなどのリスクはなくなりません。**

相場分析には、時間も必要

8/10

相場分析の基本的な考え方



相場を分析するときは、さまざまな情報をもとに、順番に考えていきます。

ニュース
国内外の出来事や動向を確認

金利
金利の動きが企業や市場に与える影響を確認

経済指標
景気や物価などの指標から経済の状況を確認

業種を考える
成長が期待できる業種やテーマを検討

企業を調べる
業種の中から個別の企業を詳しく調べる

分析には、いろいろな情報を組み合わせて確認します

情報を確認する

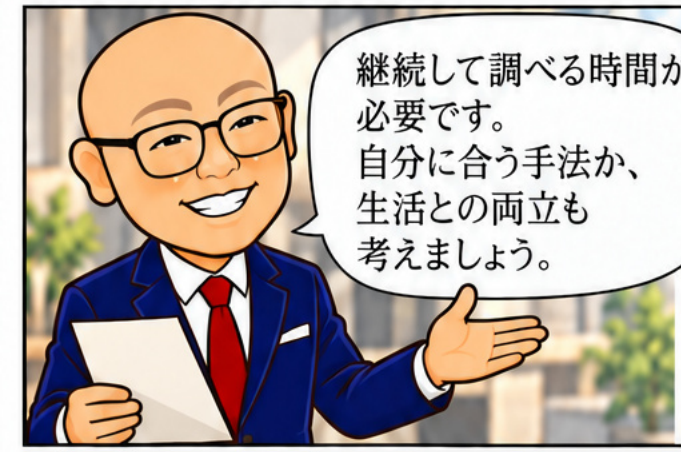
- ニュースや業界の動向
- 企業の発表資料
- 関連するデータやレポート

企業の状況を見る

- 事業内容や強み
- 業績の推移
- 今後の取り組みや成長の方向性

値動きを確かめる

- これまでの値動きの傾向
- 相場全体との関係
- 中長期の視点で動きを確認

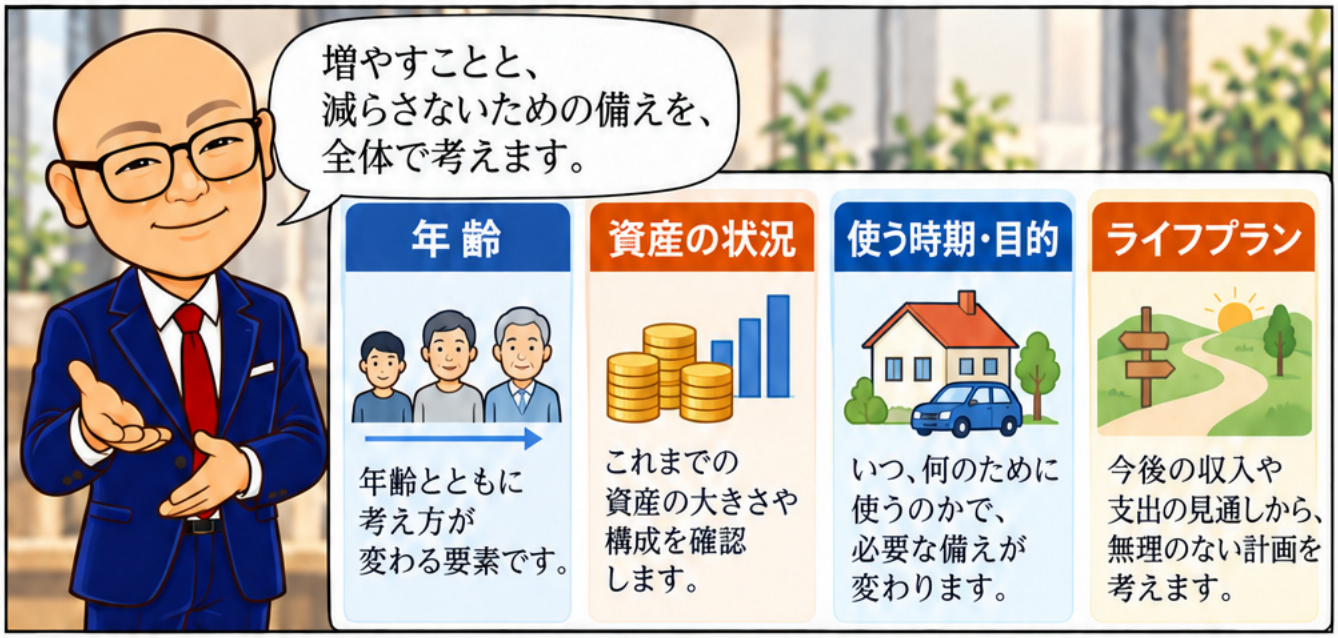


継続して調べる時間が必要です。
自分に合う手法か、生活との両立も考えましょう。



⚠ ニュースや過去の値動きだけで、将来の価格は決まりません。

守りの見直しは、年齢だけで決めない



年齢

年齢とともに
考え方が
変わる要素です。

資産の状況

これまでの
資産の大きさや
構成を確認
します。

使う時期・目的

いつ、何のために
使うのかで、
必要な備えが
変わります。

ライフプラン

今後の収入や
支出の見通しから、
無理のない計画を
考えます。

異なる値動きの資産を組み合わせる

値動きの特徴が異なる資産を組み合わせることで、
一つの資産だけに頼らない、バランスのとれた運用を目指します。

株式



企業の成長により
値上がりが期待される
資産です。

債券

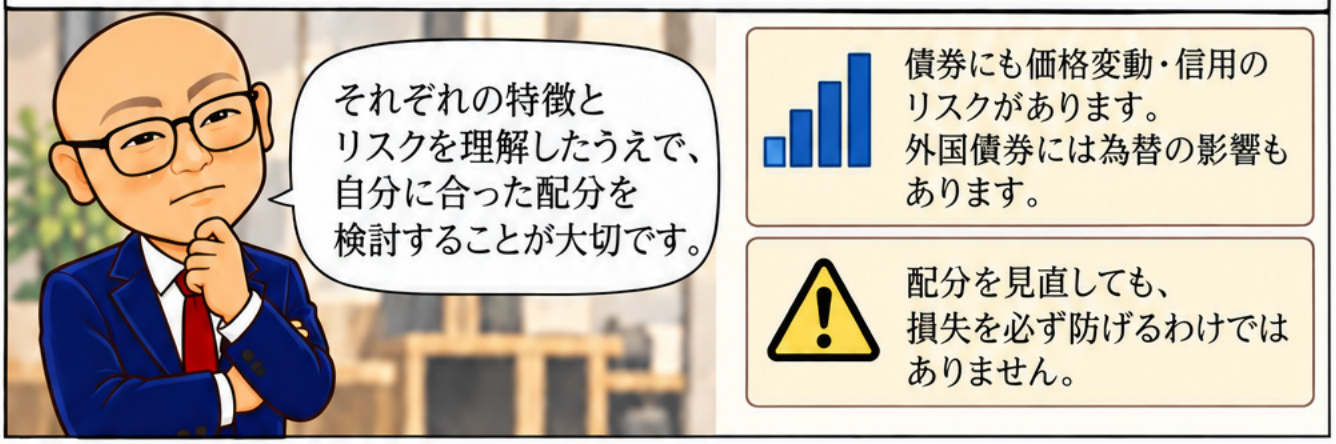


定期的な利息収入が
期待される資産です。

預貯金



元本が大きく変動
しにくい資産です。

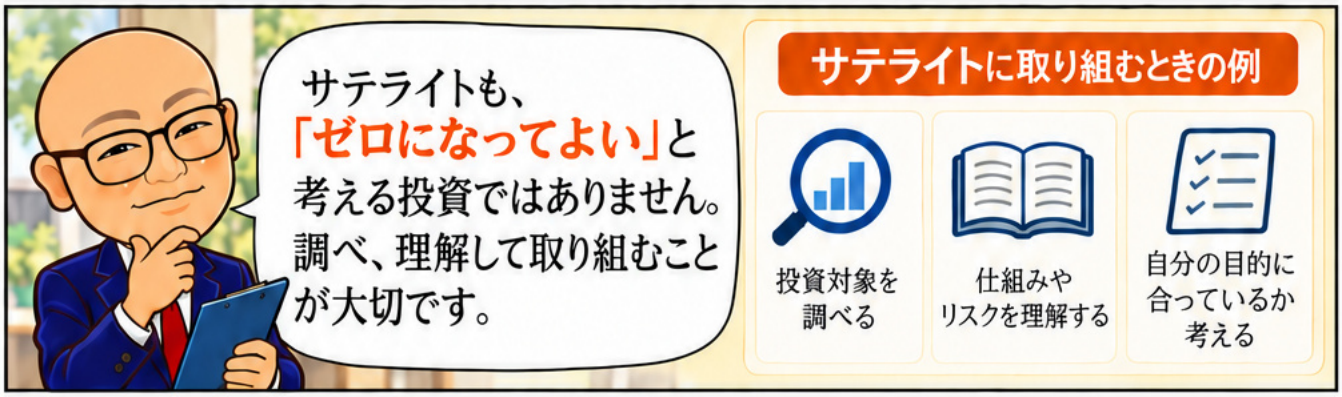


債券にも価格変動・信用の
リスクがあります。
外国債券には為替の影響も
あります。

配分を見直しても、
損失を必ず防げるわけでは
ありません。

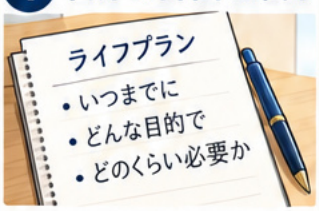
土台の計画を、先に作ろう





自分の計画を確認 → 土台を考える → 学んで理解する → 必要に応じて見直す

1 自分の計画を確認



将来の目標や使う時期を整理し、お金の役割を書き出してみましょう。

2 土台を考える



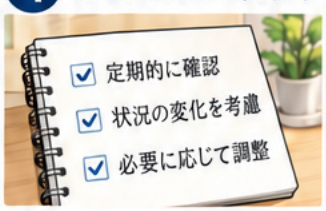
まずは生活や将来のための土台となる投資を考え、資産の基盤をつくります。

3 学んで理解する

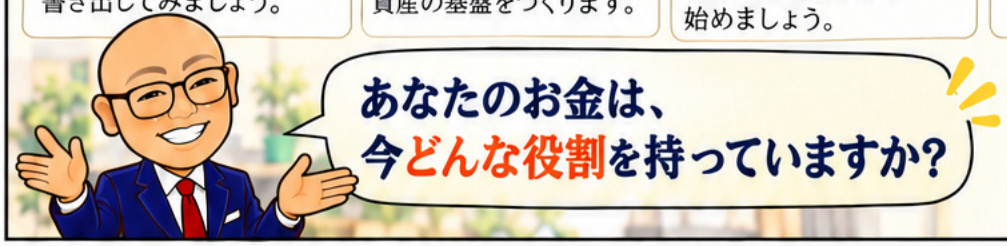


サテライトに取り組む場合は、方法や仕組みを学び、自分で理解してから始めましょう。

4 必要に応じて見直す



市場や自分の状況の変化に合わせて、役割やバランスを見直すことも大切です。



⚠ 利益や元本は保証されません。
この漫画は学習用教材です。